

なかの発!

FROM  
NAKANO  
04

能舞台と観客をつなぐ架け橋に

Umewaka International 株式会社  
 代表取締役 梅若幸子さん

中野区在住。中野区名誉区民でもある人間国宝の能楽師、梅若実氏の長女。大学卒業後、大手広告代理店勤務を経て、2007年にUmewaka International株式会社を設立。NPO法人日本伝統文化交流協会事務局長



「能楽は700年続く定番商品」。広告のプロらしく、マーケティングの視点から一言で表現する梅若幸子さん。「能楽は人間の喜怒哀楽を表現している。人の思いは昔も今も変わらない。だから自分に引き寄せて感じることができる」と長く続いてきた理由を明快に、そして丁寧に語る。能楽への深い思いと人柄がうかがわれる。「能楽の面白さを知ってほしい」と精力的に対談や講演をしながら、クラシックやアフリカ音楽など異分野と能楽のコラボレーションをプロデュースする多忙な毎日だ。

高校時代、能楽のパリ公演に同行し「何も語っていないのに、語っている」とのフランス人の言葉に感動し

た。言葉が分からなくても登場人物の感情が伝わる経験。自身も4代になってから能楽がより面白くなったという。年齢と経験を重ねると、想像する力は膨らむ。「だから共感できる」。

「自分が良いと思えないものを人様には見せられない」という父(人間国宝 梅若実氏)の言葉を胸に、能舞台に立つ側ではなく、観客として楽しむためにはどうしたらいいかを常に考えている。「自分の理解で良いか、父の一つひとつ確認しながら」実施している公演後の解説も幸子さんの企画の一つ。新型コロナウイルスの感染拡大時には、高校生と一緒に動画を制作し、YouTubeで配信。更に、映像制作会社による動画配信も準備している。「動画で能に触れ、実際の舞台を観るきっかけに」とい

う思いからだ。「能舞台は一期一会。同じものは二度と観ることはできない。ジャズのセッションのよう」。生でこそ感じられる面白さがある。

「中野は、古いものと新しいものが共存しているところが面白い」。今後は、中野らしい企画をプロデュースしてみたいと語る。「夜間薪をたいて、野外で行う『薪能』と『中野大好きナカノさん』のコラボレーションも面白いかも」。能舞台と観客の架け橋に。幸子さんの情熱と企画は尽きない。



なかの発! →  
 中野で活躍する文化人を幅広く紹介します

能楽堂の舞台裏

梅若幸子さんが企画した舞台裏を見学できるガイドツアー。梅若能楽学院会館(東中野2丁目)で能楽の鑑賞後、装束や面を間近に見られる貴重な機会です。取材時に撮影した写真を紹介します。



1.実際に演者が着た装束の写真撮影も可能 2.登場前に姿を映して気持ちを整える鏡の間 3.舞台左側の「橋掛かり」からの景色。演者の入退場は左側通行が原則

催しの開催状況は事前に確認を

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントなどの開催が中止や延期になる場合があります。参加を予定している方は、事前に区HPで確認するか、各催しの担当へ電話などで確認を。

催しに参加する際は感染症の予防対策を

催しなどに参加する際は、マスクの着用やせきエチケットに協力を。発熱などの症状がある場合は参加を控えてください。



次号予告

ふれあいショップ アザレア



なかの区報二次元コード

区内各家庭の郵便受けなどに配布しています  
 情報活用後は、資源として古紙の集団回収へ